

# 令和7年度 ワークセンター夢の樹就労移行支援 事業報告書

## 1 総括

令和7年度も就職者の輩出と新規利用者確保が順調に実施でき、就労移行支援事業に対する地域のニーズに応えることができたと共に経営的にも安定した事業を行うことができたと感じている。年度内の就職者は7名（トライアル雇用1名を含む）で、目標の4名を上回り、離職者も出なかった。毎年、小平市及び近隣市の就労支援センター等の関係機関から利用希望者の紹介やバウムからの移籍があり、7年度も5名の新規利用者を受け入れることができた。また、令和5年度以降は毎年同法人内のバウムの元利用者が当事業所から就職しており、法人内での一般就労に向けた支援が機能していると感じる。その他、一体的に運営している就労定着支援事業所の利用者で休職した3名の復職支援を行い、2名が復職することができた。残りの1名は復職に向けて支援を継続中である。

## 2 事業概要

- 1) 施設名                ワークセンター夢の樹
- 2) 事業種別            就労移行支援
- 3) 所在地                東京都小平市大沼町2-1-3
- 4) 経営主体            社会福祉法人未来
- 5) 利用定員            10名
- 6) 利用現員            8名
- 7) 法人認可年月日    平成14年12月11日
- 8) 事業開始年月日    平成20年 4月 1日
- 9) 職員                管理者 1名  
                         サービス管理責任者 2名（兼務：常勤換算1.2）  
                         職業指導員 1名（常勤換算1.0）  
                         生活支援員 1名（常勤換算1.0）  
                         就労支援員 2名（常勤換算1.1）

- 3 基本理念            一人ひとりの自己実現。  
                         互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築。  
                         安心と希望のもてる生活。

- 4 基本方針            個々に合った活動・実践的訓練  
                         情報、訓練方法等の共有  
                         計画的支援（計画→実行→評価→計画の見直し→実行）  
                         訓練・相談・求職活動の一体的支援

## 5 実施事業（活動内容）

### 1) 就労移行支援の流れと内容

#### （1）支援の流れと方法

- ・利用前会議
- ・本人把握プログラム
- ・支援計画（スケールマップ、個別支援計画、活動計画）の作成と定期的見直し

#### （2）利用前会議

- ・基本情報の確認、共有。  
就労移行支援事業の利用開始前の段階で、利用者に関しての基本情報について共有する為にケース会議を実施する。基本情報は就労支援センターを含め関係機関からの情報を得る。
- ・本人把握のためのプログラムおよび把握期間の決定。  
ケース会議では、本人の状況に応じた訓練プログラムと実施期間を決定する。

(3) 本人把握プログラム

- ・把握期間：1～3か月（利用者の状況による）。
- ・把握方法：通常のプログラム時の観察・評価
- ・把握期間終了時に、日常生活面、作業能力、社会性の項目で整理し、個別支援計画やスケールマップに反映させる。

(4) 支援計画（スケールマップ、個別支援計画）

- ・利用前実習でのアセスメントや事前に共有できた情報を基に、通所開始当初の個別支援計画とスケールマップを作成し、職員間で内容を検討する。その後週ごとに支援計画会議を実施し計画の評価、見直しを行う。

(5) その他のプログラム

- ・就労準備支援を意識した、各種プログラムの実施（随時）
- ・就労アセスメントの実施（随時）
- ・市役所や企業での実習、企業見学、トライアル雇用等の施設外支援

2) 作業種別

銀のさら はし・しょうゆセット作り

釜寅 しゃもじセット作り

受注作業（ダイレクトメール等）

3) 外部実習

市役所実習

市役所販売

多摩済生園清掃訓練

企業実習

4) 企業見学

グローブライド株式会社

株式会社アインファーマシーズ（アイン薬局）

株式会社アートネイチャー

株式会社栗原医療器械店

住友重機械工業株式会社

6 日 課

|              |             |
|--------------|-------------|
| 職員打ち合わせ、作業準備 | 8：30～ 9：00  |
| 朝礼、体操、あいさつ練習 | 9：00～ 9：15  |
| 清掃           | 9：15～ 9：30  |
| 訓練プログラム（作業）  | 9：30～12：00  |
| 休憩           | 12：00～13：00 |
| 訓練プログラム      | 13：00～14：30 |
| 休憩           | 14：30～14：40 |
| ストレッチ        | 14：40～14：50 |
| 訓練プログラム      | 14：50～16：20 |
| 清掃、日誌記入、終礼   | 16：20～17：00 |
| 職員打ち合わせ      | 17：00～17：30 |

## 7 重点課題・目標

### 1) 活動

#### (1) 個別支援の重視

##### ① 個々の状況に応じた計画的な支援

利用者個々の状況に応じた個別支援計画や就職までのスケールマップ作成を行う。利用者とは月1回以上面談を行い、本人の希望や訓練状況の変化に応じて計画を変更する。

##### ② 職業準備訓練の充実

###### ア、作業訓練

受注作業を通して、報連相などの基本的な労働習慣を習得する。

###### イ、訓練プログラムの充実

利用者が希望する職種に合わせ、提供する訓練プログラムの内容を職員ミーティングで検討し実施する。また、利用者に希望する訓練プログラムを確認し、新たに実施できるものがないか検討する。

###### ウ、面接訓練

通常の面接練習に加え、必要に応じてオンライン面接の練習を行う。

###### エ、社会人として必要な社会性やビジネスマナーの習得

社会生活上必要と思われる知識や社会性、職場などで想定されるコミュニケーションなどを習得するため、ビジネスマナー講座やグループワークなどを実施する。

###### オ、利用者の心身の健康を保つ

必要に応じて面談等を実施し、困っていることや不安に感じていること、体調管理についてのアドバイスや対策を行う。また、訓練プログラムの一環でストレス解消の取組みも行う。

#### 【成果と課題】

月1回以上の面談などで、就職に向けての目標や課題、希望や不安などを確認し、必要に応じて計画を見直すとともに助言を行った。職業準備訓練で実施しているグループワークでは、利用者より対人コミュニケーションの知識やビジネスマナー等の理解が深まったとの感想が多く、適切な言葉遣いや5分前行動などの効果が出ている。今年度は新たな訓練プログラムを取り入れることはなかったが、就職に向けて資格取得のための学習を行った利用者や、自身の職業適性を把握する取り組みとして東京障害者職業センター多摩支所の職業評価プログラムに参加する利用者があるなど、個々の希望や状況に応じた職業準備訓練が行えたと感じる。一方で、令和7年1月より体調が優れず利用を休止していた利用者1名が、体調が回復せずに期間満了前で利用終了となった。利用終了後は本人の希望により、体調回復のため在宅での療養を継続している。また、その他2名が精神面や体調面が不安定になり、通所できない日が多くなっている。面談などで本人の話を傾聴し、回復に向けての助言を行ったが、まだ回復には至っていない。前述の3名を除いた13名は順調に職業準備訓練が行え、6名が就職し、その他トライアル雇用からの本採用が1名あった。

#### (2) 丁寧なマッチングによる就職活動支援 - 目標就職者数4名

##### ① 利用者、企業双方に必要な情報を提供する。

利用者には求人の仕事内容や通勤経路等の情報を伝え、企業には利用者プロフィールシートを提出し、利用者の特性や配慮事項等を伝える。

##### ② 職場実習などの施設外支援や職場見学などを行う。

入社を決める前に可能な限り職場見学や実習を行い、マッチングを確認する。

#### 【成果と課題】

5月、9月、12月、3月にそれぞれ1名、2月に2名の計6名が就職した。また、7月からトライアル雇用で勤務していた1名が1月に正式採用となった。6名のうち5名は当事業所から就職実績のある企業や屋内型農園などへの就職であり、事前に職場環境や仕事内容を伝えるとともに業務体験や職場実習を行った上で入社となった。残りの1名は当事業所からの就職実績がない企業だったが、企業見学や職場実習を行った上で入社となった。7月にトライアル雇用を開始した1名は入社後、心理面で不安定になることはあったが雇用を継続し1月から正式採用となった(詳細は1)－(3))。前述の6名全員が入社前に企業にプロフィールシートを提出し本人の特性や配慮事項を伝えた。3月末現在、6名全員が雇用を継続している。

### (3) 就労定着支援の充実

#### ① 本人支援

職場での対人関係や環境の把握に努め、企業が求める人物像や業務内容を本人に伝えるなど、職場適応支援を行う。

#### ② 企業支援

就職者の業務内容、対人関係、職場環境等に関する企業からの相談を受け、就職者の特性に応じた対応について助言を行う。

#### ③ 様々な状況や希望に対応した定着支援

職場や本人が希望する場合はメールやオンライン面談、本人の自宅訪問、来所面談などで状況を確認する。また、休職や休業などで自宅待機となった就職者を受け入れ、体力低下や生活リズムの乱れを防ぐとともに、面談等により精神的な安定を図る。

#### 【成果と課題】

対象者10名については、概ね月1回の職場訪問を行い、本人また企業の状況や意向を確認した。10名の内1名は勤務先から業務習得や勤務態度に課題があると相談があったため、本人に課題改善に向け助言を行ったが大きな変化はなかった。就労は継続しており11月に一体的に運営している就労定着支援事業所を利用し、引き続き課題の改善に取り組んでいる。トライアル雇用の1名は自身の業務習得が進んでいないと感じ気持ちが不安定になることが続いたが、業務に慣れるにつれ徐々に不安感が解消され、3月末現在は概ね安定して勤務できている。その他の8名は概ね安定して勤務を継続している。10名の内5名は令和7年度内に就職後6か月が経過し、当事業所と一体的に運営している就労定着支援事業の利用を開始した。他の5名も利用を希望しており令和8年度に利用を開始する予定である。また、当事業所から就労定着支援事業へ支援を引き継いだ利用者の内3名が休職となり復職の為の支援を実施した。当事業所への通所や面談により、2名が年度内に復職し、他1名は5月の復職に向け支援を継続中である。

### (4) 就労継続支援B型事業利用希望者のアセスメントの実施

軽作業、漢字テスト、計算問題等のプログラムを実施し、作業能力、持続力、集中力、またコミュニケーション能力などの社会性についての評価を実施する。

#### 【成果と課題】

就労継続支援B型事業利用希望者8名のアセスメントを実施した。軽作業や漢字テスト、計算問題などを実施し、作業能力や持続性、また報告、連絡、相談等のコミュニケーション能力の評価を行った。評価結果は8名全員が就労継続支援B型事業の利用が適当となった。

## 2) 人材育成

### (1) リーダー層の育成

### (2) 業務標準化

#### 【成果と課題】

- (1) 昨年度訓練等給付費の請求業務及び経理の学習会を行った職員1名が請求業務の実務を行った。また経理については会計ソフトの入力業務を行い、習得が進んでいる。
- (2) ミーティング等での支援方法についての意見交換や支援内容の共有は根付いており、概ね統一した方針で支援にあたれている。事務面についてもミーティングなどで業務内容や手順について共有するとともにOJTを実施し、業務の習得が進んだ。

## 3) 経営管理

### (1) 収支均衡の分岐点である1日平均利用者数8名以上、新規利用者数5名を目標とする。

- ① 近隣の関係機関リストをもとに、特別支援学校、就労支援センターなどへ利用者募集を行う。訪問を基本とするが、状況に応じてメール、オンライン面談を活用し、関係性の継続と強化を図る。過去の紹介実績を基に、効果の高い関係機関に重点を置くとともに新規の関係機関の開拓を行う。
- ② 法人機関紙およびホームページへのチラシ掲載などの広報活動を行う。
- ③ バウムの利用者状況を確認し、ステップアップ候補者の発掘に取り組む。
- ④ インターネットを活用した利用者確保の取り組みを実施する。

### 【成果と課題】

令和7年度の新規利用者は5人で、3月末時点での1日平均利用者数は8.5人となり、昨年度を0.1人上回った(令和6年度8.4人)。令和6年度よりも利用実績が増加し、報酬ランクも1ランク上がったことで給付費収入は前年度の2,181万円と比較し411万円増額し、2,592万円となり黒字収支となった。

今年度は新規の関係機関2件に訪問し、情報交換を行うなど関係性を築くことができた。また、近隣市の就労支援センター等8件、特別支援学校5件に訪問や電話連絡等で利用者紹介の依頼を行った。令和7年度は就労支援センター等からの紹介で見学者が13名あり、内8名が実習を行い、その内2名が利用となった。また、バウムの利用者3名の実習を受け入れ、2名がそれぞれ11月と1月から利用を開始した。もう1名は令和8年4月からの利用となった。

令和5年度から掲載しているインターネットの事業所紹介ページを見て5名から問い合わせがあり、内3名が実習を行い1名が利用を開始した。また、昨年度見学した1名が4月に実習を行ったが利用には結びつかなかった。

### (2) 月次試算を正確に行い、計画的に予算を執行する。

### 【成果と課題】

月次試算の分析を丁寧に行い、計画的に予算を執行できた。

### (3) 経費削減を徹底する。

- ① 未使用スペースの消灯等節電の徹底。
- ② 整理整頓により、備品、消耗品等の在庫管理を徹底する。
- ③ 印刷物については必要枚数の確認や、枚数の多いものについては試し刷りを行うなど無駄な印刷を行わないようにする。

### 【成果と課題】

訓練室前の廊下の消灯忘れなど、未使用スペースの消灯は徹底されていなかった。消耗品の在庫管理、印刷前の確認などは概ね実施できている。

## 8 その他の成果と課題

- 1) 利用者健康診断を7月に多摩小平保健所にて実施した。

## 9 事故等報告

- 1) なし。

## 10 開所状況

- |         |             |             |
|---------|-------------|-------------|
| 1) 開所期間 | 自 令和7年4月1日  | 至 令和8年3月31日 |
| 2) 開所日数 | (1) 週開所日数   | 5日間         |
|         | (2) 開所時間    | 午前9時～午後5時   |
|         | (3) 年間延開所日数 | 242日間       |
|         | (4) 平均活動時間  | 5.7時間       |

## 11 利用状況

- |                       |        |              |
|-----------------------|--------|--------------|
| 1) 利用者延人員             | 2,054人 | (前年度 2,038人) |
| 2) 1日平均利用人員           | 8.5人   | (前年度 8.4人)   |
| 3) 体験実習者延人員           | 88人    | (前年度 71人)    |
| 4) 1日平均実習人員           | 0.3人   | (前年度 0.2人)   |
| 5) 実習者実人員             | 13人    | (前年度 15人)    |
| 6) 企業内実習者延人員          | 100人   | (前年度 118人)   |
| 7) 就労継続支援B型アセスメント利用人員 | 8人     | (前年度 5人)     |

1 2 利用者状況（令和8年3月31日現在）

1) 年齢

|            |    |
|------------|----|
| 18歳以上20歳未満 | 0名 |
| 20歳以上30歳未満 | 5名 |
| 30歳以上40歳未満 | 3名 |
| 40歳以上50歳未満 | 0名 |
| 50歳以上60歳未満 | 0名 |

2) 障害の状況

|               |    |
|---------------|----|
| 愛の手帳3度（東京都）   | 1名 |
| 愛の手帳4度（東京都）   | 1名 |
| 精神障害者保健福祉手帳2級 | 1名 |
| 精神障害者保健福祉手帳3級 | 4名 |
| 身体障害者手帳       | 1名 |

3) 通所手段

|        |    |
|--------|----|
| 交通機関利用 | 7名 |
| 徒歩等    | 1名 |

4) 居住状況

|      |    |      |    |
|------|----|------|----|
| 管内居住 | 2名 | 管外居住 | 6名 |
|------|----|------|----|

5) 性別

|    |    |    |    |
|----|----|----|----|
| 男性 | 4名 | 女性 | 4名 |
|----|----|----|----|

1 3 利用者工賃

|      |    |    |   |            |         |
|------|----|----|---|------------|---------|
| 平均工賃 | 1人 | 月額 | : | 3,208円（前年度 | 3,334円） |
|      |    | 日給 | : | 197円（前年度   | 217円）   |

1 4 就労者の状況・バウムからの受入れ状況等

今年度就労者・・・7名（内トライアル雇用1名、離職者0名）  
今年度バウムからの受入れ・・・2名

1 5 環境の整備

職員、利用者が毎日、室内や建物周辺の清掃を実施し、年間を通して清潔な環境を保つことができた。

1 6 防災計画

自衛消防訓練を年2回実施した。また、3月に当法人と小平手をつなぐ親の会との共催の防災訓練に参加した。